



熊本再春荘病院医療連携室だより

再春



平成31年 第1号

発行所：熊本県合志市須屋2659番地
熊本再春荘病院
編集：医療連携室

KUMAMOTO SAISHUNSO NATIONAL HOSPITAL

熊本再春荘病院ホームページ <http://www.k-saisyunsou.jp/>



今回も当院入院中のI様から立派なCGを戴きました。I様、いつも有り難うございます。
春の訪れを告げるつくしたちが淡い色調で美しく描かれています。

病院の理念

わたしたちは
患者さまひとりひとりの人権を尊重し
思いやりの心を持って
安心と信頼の医療を
提供します

病院運営の基本方針

1. 患者さま中心の医療
2. 専門知識及び技術の向上
3. チーム医療の推進
4. 地域医療連携の推進と地域への貢献
5. 経営基盤の安定

Contents

1. 院長あいさつ 2
2. 病院機能評価訪問審査合格のお知らせ 3
3. 新病院建替進捗(Ⅱ期工事) 3~4
4. 医療安全相互ラウンド報告 4
5. 感染対策相互チェック報告 5
6. 菊池救急医療研修会報告 5
7. 「難病サロン再春」開設 6
8. 開放型病院登録医紹介【菊陽台病院】 6
9. 病棟・部門紹介【東4病棟】 7
10. 開放型病院登録医紹介【ナカシマセブクリニック】 7
11. 病棟・部門紹介【薬剤部】 8
12. 熊本再春荘病院学会報告 9
13. 新任スタッフ紹介 10

平成最後の年を振り返って

病院長 米村 憲輔

皆様には平素より当院の運営ならびに医療連携に多大なるご支援ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。お陰様にて昨年也大過なく経過いたしました。

しかし全国に目を向けると、平成30年は各地では自然災害が頻発しました。年当初には豪雪による被害、夏場には連日の猛暑とともに台風による被害が頻発、とくに台風21号が上陸した際には、関西国際空港が浸水して社会生活も大きく混乱しました。さらに台風24号のときは、初めて首都圏の路線を計画運休させるなど、交通機関にも多大な影響がでました。年々激しくなる異常気象は、やはり地球温暖化の影響でしょうか。

また地震も頻発、4月9日の島根県西部、6月18日の大阪府北部地震に続いて、9月6日には北海道で最大震度7を観測した北海道胆振東部地震が発生し、大きな被害を出しました。この際の発電所の停止により道内全域での停電、いわゆるブラックアウトが発生し電力供給面の問題が浮き彫りとなりました。また、われわれにとっては思わず3年前の熊本地震を想起させる出来事でもありました。

いっぽうで明るい話題もありました。将棋界で圧倒的強さをもって昇段を重ねていった藤井聡太棋士や、百周年を迎え

た夏の甲子園で、103年ぶりに秋田勢の決勝進出の牽引役だった吉田輝星投手など、若者たちの澁刺とした活躍には感動させられました。

さて当院は3月に病院機能評価訪問審査を受けましたが、ほとんど改善事項の指摘はなく無事更新が認められました。約1年前から職員一丸となって、各方面の整備に取り組んできた努力の賜物であり、すばらしい成果でした。

新病棟建設工事は、お蔭様でほぼ予定通り進んでおり、あと半年ほどで竣工予定です。現在八階までの骨組みは完成し、内装工事に取り掛かっているところです。運用開始は平成31年の秋ごろの予定です。その後、管理棟整備、駐車場整備さらに外溝整備と工事が続くこととなります。その間皆様には何かとご不便をおかけしますが、ご理解ご協力よろしくお願いいたします。

平成の年号も残りわずかの期間となりましたが、当院は今後も確固たる地域連携のもと、県北の中核病院としての診療体制をさらに充実して参ります。引き続きご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

病院機能評価訪問審査合格のお知らせ

副院長 上山 秀嗣



認定証は病院内の正面玄関に掲示しています。

前回の本広報誌におきまして、平成 30 年 3 月 15・16 日の 2 日間にわたり公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価（第 3 世代 Ver.1.1）の訪問審査を受審した旨報告しました。その後、7 月 9 日に合格の通知があり認定証が届きましたので、ご報告申し上げます。今回の認定証には病院機能評価の合格が 3 回目であることを示す星マークが 3 個描かれています。新たな改善の要望は無く一発で合格できましたのは、約 1 年間にわたり病院機能評価の準備に努力を惜しまなかった病院職員のお陰であり、全職員に感謝したいと思います。合格はしましたが、指摘された改善事項もございますので、今後も引き続き病院の質改善に向けて努力を重ねて参りたいと思います。

病院建替え工事（Ⅱ期工事）の進捗状況

企画課長 橋本 和明

前回の状況をお知らせした際は、本館棟の基礎工事を行っているところでしたが、現在は建物の骨格も出来上がり、少しずつ本館棟の完成が近づいていると実感出来るようになっていきます。

前回からの工事の状況ですが、基礎工事が完了し、6 月に入るといよいよ鉄骨を建てて行く工事が始まりました。

鉄骨は 1～2 階、3～5 階、6～8 階の 3 本の長さの鉄骨を繋いで、8 階までの鉄骨を組み上げていきます。建て面積でいくと建物全体の 4 分の 3 が 2 階建てで、4 分の 1 が 8 階建ての建物になっていますが、全体の 4 分の 1 ずつ鉄骨を組み上げていきましたので、6 月の終わりには一部 8 階の鉄骨が立ち上がり、7 月の終わりには 8 階部分の鉄骨が全て立ち上がりました。最も高い部分の鉄骨が完成するに当

たり、7 月 30 日に上棟式が行われました。

神職によるお神事が行われた後、米村院長、上山副院長による儀礼が行われ、その後クレーンで棟の鉄骨が最も高い位置へ吊り上げられて取り付けられて上棟式が終了しました。

全ての鉄骨が立ち上がったのは 8 月下旬でした。➤



骨組みが出来上がった後は、各階のコンクリートの床を作る工事が行われました。

床はデッキという鉄筋の入った板を並べ、その上に配筋をしてコンクリートを流し込み床を作っていきます。全ての階の床が完成したのは10月の下旬になります。

また、床の完成した部分から内装、外装工事が行われています。

外壁工事は壁の部分にECP板（セメント、ケイ酸質、繊維質素材の中空素材の板）を取り付けていくもので、6階まで進んでいます。また、外壁板の取り付けが終わったところからアルミサッシの取付も行われています。

内部の工事では、間仕切りの工事が行われており、4階部分まで工事が進められています。

間仕切りがある程度出来た階をみると、いよいよ建物らしくなってきたという感じです。

外から見ると工事足場やシートに隠れ、どこまで工事が進んでいるのか分かりにくいと思いますが、

着実に完成に向けて進んでいます。

平成30年末から年明け頃に外壁の工事が完了する見込で、その頃には足場やシートも取れて本館棟が御覧になれるのではないかと思いますので、楽しみにして下さい。

本館棟完成まではあと半年、開棟まで1年を切りました。

本館棟が完成した後は、3期工事の管理棟改修工事へと進んでいきます。

全ての工事が完了するのはまだまだ先になりますので、今後進捗状況をお知らせしてまいります。



医療安全相互ラウンド

医療安全管理係長 折田 ときえ

平成30年度の診療報酬改定により、地域で医療安全を推進するために「医療安全地域連携加算」が新設されました。地域連携加算の算定開始に伴い、当院も加算Ⅰ施設の役割を果たせるよう年度初めより経営企画室と協働し準備を行いました。加算Ⅰ連携は国立病院機構熊本南病院様、加算Ⅱ連携は水前寺とうや病院様・武蔵丘病院様の2施設と連携するための確認書を交わさせていただきました。

地域医療連携加算の初年度として、どのような手順で進めていくか手探りの状況ではありますが、地域の医療機関同士が医療安全管理に係る体制や活動について取り組みができるよう連携を進めていきたいと考えています。

現在の活動として、9月に加算Ⅱの2施設へ赴き評価の指標について国立病院機構で使用しているチェックシートに基づき説明を行いました。また

10月末には、加算Ⅱの施設と当院の3病院が「医療安全連携合同会議」で顔合わせを行い、現時点における疑問や今後の予定の意見交換を行いました。連携する施設双方が負担にならないこと、また、効果的な医療安全の連携につなげることについて、3施設で共有することができました。なお今年度内に当院は、あと2施設の医療安全対策に関する評価を行う予定としています。



感染対策相互チェック

感染管理認定看護師 田中 亮子

日本の医療関連感染対策は、その時々の方令や行政施策により変化してきました。近年では医療機関の枠組みを超えて、地域における医療関連感染対策の支援体制を強化しています。

当院は 2012 年より感染対策加算 1 及び地域連携加算を取得しており、周辺地域の医療機関と連携を取りながら、地域全体の医療関連感染の低減を目指しています。

その取り組みの一環として、感染対策加算 1 取得病院同士の感染制御チーム (ICT) がお互いの病院をラウンドし、感染対策を推進する活動を行っています。今年度は、医療法人創起会くまもと森都総合病院の ICT メンバーが当院のラウンドを担当され

ました。

まず、病院の感染対策における組織や教育体制など基本事項の確認が行われ、院内ラウンドでは外来部門や病棟の感染対策の実際を見られました。具体的には、感染対策の基本である手指衛生が現場でどのように実践されているか、また、物品の洗浄、消毒や保管が適切に行われているかなどを評価されます。外部評価を受けることは、自分たちでは気づけなかった問題点や施設の課題が明らかになり、新たな対策に取り入れることができる良い機会となります。

反対に、私たち ICT が感染対策加算 1 取得病院へ訪問する場合には、他の施設が取り組まれている活動や対策を学び、当院へ還元できる機会にしています。

今後も周辺地域の医療機関との連携を深め、自施設に留まらない感染対策を推進し、予防活動に邁進していきます。



第16回 菊池救急医療研修会(特別講演)の開催について

経営企画室長 中川 浩介

菊池救急医療研修会は、菊池地域医療圏における救急医療の向上並びに救急医療機関の連携を高めることを目的に、平成 25 年より開催されています。1 年間で症例検討会を 2 回及び特別講演を 1 回当院にて開催しています。今回の特別講演は、平成 30 年 9 月 19 日に開催され、熊本赤十字病院から平井克樹第二小児科部長をお招きし、「熊本県の小児救急医療の現状」についてご講演をいただきました。小児集中治療室 (PICU) の立ち上



げの際にご苦労された話、熊本県のへり搬送体制や体外循環を伴った治療のことまで丁寧に、判り易くお話をしていただき、聴講者一同興味深く拝聴することができました。平成 31 年度も例年通りであれば秋頃に開催することになりますが、その際はご案内を申し上げますので多数のご参加をお待ちしております。